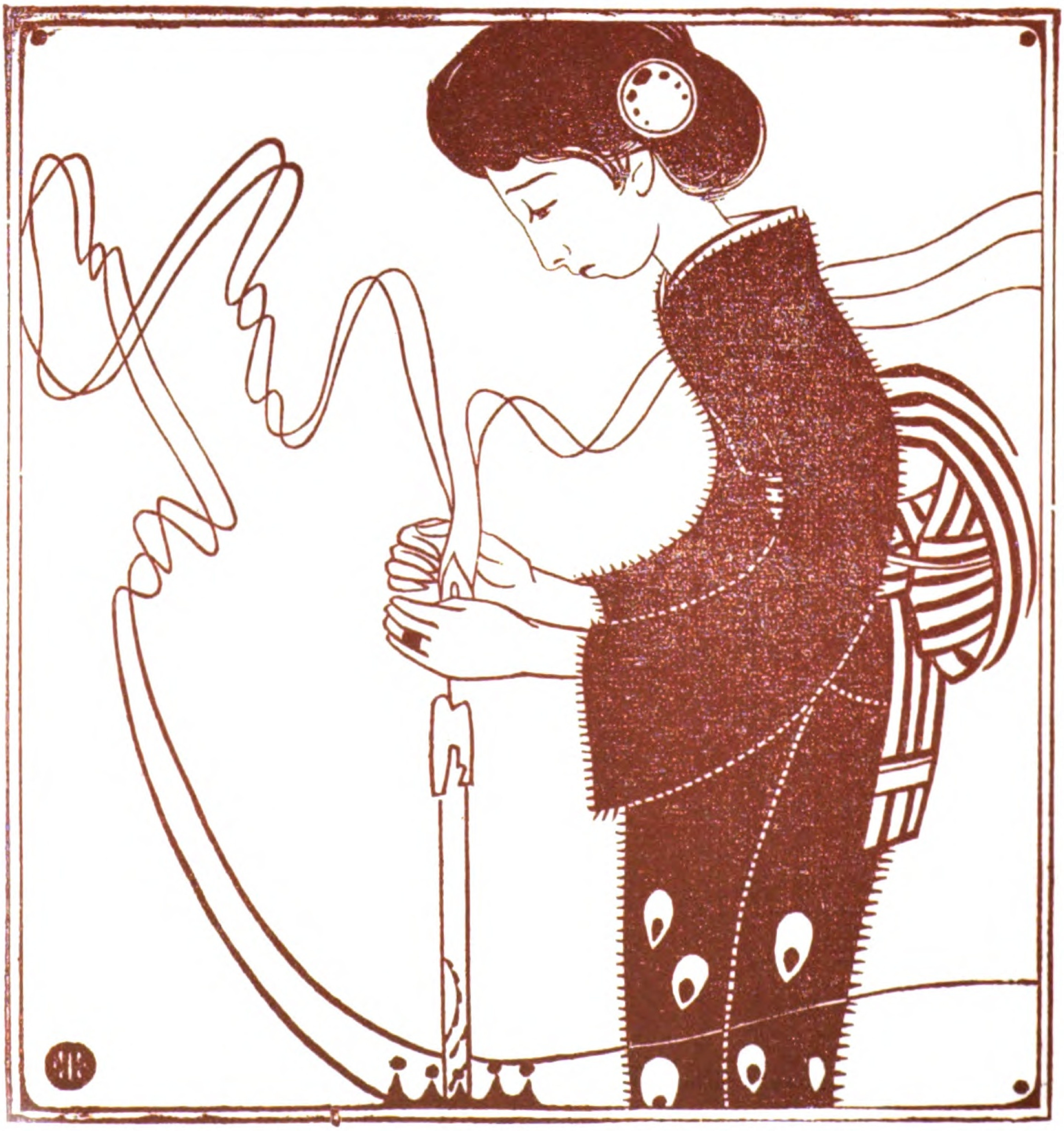
新眞婦人

十二月號

第八十號

大正二年四月二十六日第三種郵便物認可
大正八年十一月二十八日印刷納本
大正八年十二月一日發行（每月一回一日發行）



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

診察毎朝及毎夕、但祭日及日曜の他
院長診察月、金、木午前及木午後六時
林、峰間、兩副長は目下當院に在勤
東京麹町三番町三十番地（市ヶ谷見附内）
電話番町（六二一番 五一六番
東洋内科醫院
院長 醫學博士 高田畊安
電話ちがさき二番
南湖院
神奈川縣茅ヶ崎海濱（從停車場半里）
河野、高橋兩副長は目下當院に在勤
院長 診察 土曜日 午後 入院診後應需
診察毎日午后、但祭日及日曜の他

（第八十號）
十二月號

生活改造と婦人の力

今日世界を騒がして居る、改造問題は要するに生活改造の問題である。既に生活改造の問題である以上、臺所が此の問題の中心であらねばならぬのは、元より云ふまでもない。果して然からば、婦人が此の改造の主たる働き手であらねばならぬのは、之れ又云ふまでもない所である。

先達千住の教育會で、林すえ子女史を聘してジャガ芋の講演會を開いた。其數日後、同地に於て或會合の席上、一紳士曰く

彼の樣な問題になると、男は駄目だね、男の聽衆は門を出ると忘れて仕舞つたが、四五人來て居た女の人は、何れも歸つてから早速ジャガ芋めしをたいて見たソウだ。

と、之れはソウあるべきことである。されば生活の改造を徹底さす爲めには、婦人が先づ覺醒しなければならない。改造の聲が政論者である間は駄目だ。それが婦人の聲とならねばならない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

結婚が職業の終りなるか

◇勤續せぬので困る

婦人を使つてる人は皆な一樣に申します「婦人はどうも勤續せぬので困る、少し役に立つ樣になつた頃には、止めてしもう、若しくば轉業して仕舞ふ云々」大阪の宇野利衛門氏の調査によれば、女工の平均勤續年月數は左の如くであります。

◇平均勤續年月數

社名工場名	女工
鐘淵紡績	三年三月
東洋紡績	一年七月
富士瓦斯紡小山	二年九月
同　保土ヶ谷	二年七月
攝津紡明石	一年八月
福島紡本社	一年八月
倉敷紡倉敷	二年六月
同　玉島	二年十一月
明治紡績	一年二月
堺紡績	一年九月
松山紡績	一年十一月
東京キャリコ	二年九月
日本毛織加古川	一年三月
近江帆布	一年六月
帝國製麻札幌	二ヶ年
同　鹿沼	二年九月
紡績工場平均	一年十一月
專賣局淺草	二年五月
同　岡山	一年十一月
同　山形	二年三月
專賣局平均	二年二月
方城炭坑	
三菱神戸造船所	
木本鐵工所	
三菱大阪製錬所	
小野田セメント	三年八月

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

旭硝子本社	一ケ年
日本陶器	二ケ年
大日本紡績大阪	二年六月
大日本人肥館	四ケ年
王子製紙本社	三年四月
同　中部	一年十月
總平均	二年三月

其他の婦人勞働者、女事務員などの平均勤續年月數に就ては調査が有りませんが、雇主が何れも「婦人は續かなくて困る」と云つて居る、其の勤續の短かいものであることは察せられます。

◇何せ勤續せぬのか

それは勿論、其の待遇が惡いからでありましよう。農商務省で、信州の製糸工女を調査した報告書（大正六年四月の調査）の中に

▲有夫女工の寢室、三疊一間に一組を收容せるを一般とし、八疊の間に二組或は三組を收容せるあり、最も甚だしきは區劃なき八疊間一室に八組の有夫女工を收容せる工場ありと云ふ。

▲多くは僅かに光線の射入さるるのみ、甚しきに至りては採光窓全くなき暗黑なる寢室を見ること一再に止まらず、偶ま其の非衛生的なるを說けば「何れ眠る所なれば光線の必要なからむ」云々

とあり、又「信每」諏訪支局在勤記者丸山直光氏が、信州岡谷の製糸工女に就て書いた文の中に、

▲それは即ち所謂諏訪製糸家の獨創にかゝる一種獨特の賞罰の制裁であつて、每日かくして汗みどろになつて挽き上げられた糸は直ちに試驗室に於てその良否を分析的に檢査されるのであつて、その結果が直ちに其月の賞となり罰となるのであるが、その賞罰の割合が頗る不可思議なるものであつて、一旦賞を受けたものは同一の成績を持續する間は決して再び賞せらるゝことなきにも係らず、苟くも前回に比べて幾分なり成績の不良なるものあれば、直ちに其都度何の假借なく罰を附せらるゝのである。

▲稍未熟なる工女などは殆んど泣きの淚で働き通し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て其結果が勞働工賃と罰金と相殺して一錢の得る所もなかつたといふが如きことは決して珍らしくない。

▲昨年の十一月某工場に於て數百人の工女を僅かに數丁を上つた岡谷小學校に參集せしめやうとした時、途中氣息奄々として他人の手を借りずして上ることの出來なかつたものが非常に多數であつた。

とあります。

斯かる待遇では勤續せぬのに、不思議はありません。女事務員に對する待遇は、元より女工の比ではありません。けれども「成程之れでは勤續せぬのに不思議はない」と思はしむるもの多々であります。

◇他にも理由あり

併しながら婦人の勤續せぬのは、其待遇の惡いからだとのみは申されません。歐米では女工にしても、女事務員にしても、其の待遇我國の比ではありません。隨分改善されて居るが、それで居て矢張り勤續せぬと見へ、婦人を勤續せしめることに就き色々と苦心して居る樣子であります。

賃銀の値上げや、時間の短縮が、婦人を勤續せしむる上に、それ程の効のないのは、若かき婦人の多くは、結婚までの年月を働くのであつて、結婚が即ち職業の終りであると考へてるからでありましよう。

◇結婚は果して職業の終りなるか

今まで多くの婦人は而か考へて居たから、結婚は職業の終りとなつたのであつて、此考は永久に變らぬものとは申されません、而して此の考へだに變れば、形勢が一變致します。外には工場なり、事務室なりが、段々婦人の働くに便なる樣、改善されつゝある上に、内には家庭の事務が段々減少して、家婦はツマラヌ事のみをして居なくてはならないのに、氣を腐らして、多くは神經衰弱にかゝりつゝある有樣なれば、モウ結婚が職業の終りだとの思想の一變せねばならぬ時期が來て居ると云はねばなりません。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

且つ小供の敎育の上から申しましても、今までは主婦の留守勝は小供の敎育上由々しき大事であると思はれて居たが、今ではその反對に「家庭團欒の樂しみも、小供の敎育も、夕食の時及び其後の數時間で澤山である」と云はるゝに至つて居ります。イクラ親子でも、夫婦でも毎日〳〵朝から晩まで一緒にばかり居ては、話もなくなり、お互に何んの興味もなくなり有るものはたゞ小言、小ぜりあいのみとなりましよう。家族の各員が、それ〴〵何にか家庭外にも興味を引く仕事などを持て居る家庭の方が、一般に温かき家庭である樣であります。

◇今後の婦人

されば今後の婦人は、消極的な仕方と、小さな隱家に引込んで居ることを止めて、積極的とならねばなりませぬ。活動は世界に於ける最大の敎育者であることを忘れてはなりませぬ。……

ですから娘を敎育するに當つても、過失のない樣に、ない樣にと、用心のみして、娘を「何んにも出來ぬ婦人」に育て上げてはなりませぬ。

イクラ所謂上品に育て上げ、其の上、親の慈悲で、お金をつけて置いても、娘其人が無能力に育てられて居ては、それでどうして安心が出來ましよう。特に今後の社會に於ては……

社會は今や婦人にとりても、危險な場所でなく家庭よりも愉快な所となりつゝあるのである。否ソウなるべく導かれつゝあるものであります。今後は婦人の天地も、男子同樣、廣い〳〵社會であらねばなりませぬ。

新年號からの表紙を有島生馬氏にお願ひいたしておきました處、氏は氏が數年前にお書きになつた「蝙蝠の如く」の主人公（背井濟次郎氏）にお願ひして下さいました、同氏は今年三十年振りで日本に歸朝された方で、非常なる過去を經て來られたのです、同時に其の波亂曲折極まりなき經歷の自傳をもあはせ載せます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家賃の値上げに就て

西川文子

今日市中の小賣店は、八百屋でも魚屋でも、其家によつて價格が大變相違してゐますが、家賃の等差はそれよりも甚しく、日用品の價格の相違處ではありません。同じ疊數二十疊敷位の家でも、甲の家主は二十圓乃至三十圓もとり、乙の家主は十圓乃至十五圓位しか要求しないと云ふ風に、不同な例はざらにあります。

無論其の原因は樣々で、材料暴騰の今日建築された家の高いのは判つてゐるが、中古、大古の家でも、家主によつて貸家拂底の折柄奈何に値上げしても借手があると云ふのに乘じて、數年前より三割乃至五割の値上げは普通でまだいゝ方で、殆んど倍額にしてゐるのが往々あります。家屋稅の値上げ、地代の値上げも其理由とされてゐますが、地主の大小善惡、家主の大小善惡によつての相違で、一般の物價騰貴からばかり來たものとは思はれません。甲の家も乙の家も値上げしたのに、自家丈け値上げしないのは損だと云ふ心持ちもありませう、又甲、乙の家主から釣合上比較的善良な丙の家主をも勸誘するのにもよるのです。兎に角地主、家主は互に相談するのです。

今日普通の家主の取つてゐる算盤はざつと次の樣です。十年前に千圓で建てた家は、今日三千圓でも建てられないから三千圓の時價に見積つて十五圓位で貸てゐては其金利に當らないと云ふのです。十年間の家賃で既に千圓の建築費は取戻された事や、社會の推移によつてさうも價格の上つた僥倖を寧ろ喜ばねばならぬ事は考へないで、千圓で建た家を家賃を十五圓として、其内地代一圓、火災保險二圓、家屋稅一圓、水道一圓弱、修繕費二圓、合計七圓は支出になると云ふのです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

純益月八圓として一ヶ年約百圓、元金の一割に相當するわけです。二割三割もの利廻りになる事業には比較にならぬかも知れないが、公債や銀行の預金ならば五分か六分にしきやなりません。

併しこんなのはまだ／＼上等の方の家主であつて、一軒や二軒の家を當にして食べてゐる樣なのになると、從來三十五圓のものを一躍五十圓にしたり、十二三圓の家を二十五圓にもしたのがあります。それでも借手があるからいゝと云つてゐるのですが、中には二三ヶ月の敷金を入れたまゝで、一年も二年も家賃を滯らせられて困つてゐるのもあります。

私はかう云ふ際ですから、心ある家主達に希望します、雜用を引いて建てた時の資金の利子に廻りさへすればよいと云ふ事に滿足して下さることを。

けれども家屋稅を、家屋の大小に區別なく、同じ比例で上げられては、いくら善良な家主でも、家賃を上げぬわけには行きません。現に私の住つてゐる本鄕區でも十五萬圓の學校新築費を差當り家屋にかけるだらうと豫想してゐる人もあります。來年度の二億圓の增稅も何れは家屋にかゝつて來ようと脅かされてゐる向もあります。何でもかでも區役所では尤も分明な家屋にかけて來ると云ふ事です。此の際家賃迄高くなつては中流及び中流以下のものは全くやり切れませんから、此點を當局に深く考へて欲しいと思ひます。

家主の自制と、當局の方針變更とによつて早く無法な家賃の値上げを止めないと、困る者の止むを得ない處から云はず語らずの不拂同盟の形を結ぶ樣な事があつては大變だと思ひます。

◎粉末かつをを使つて見て

新らしいものには兎角理由なしに反感をもち易いものです、私も最初はそれほどとも思ひませんでしたが、二三罐使つてゐる中に、味の工合ならすつかり氣に入りました。それに分量が多くて使つても／＼なか／＼無くなりません。惣菜の調味料には此上なく經濟で、しかもいゝ出しが出ます。

二ヶ月間自家で使つて見て、味が口について經濟で其の上普通鰹ならばかゝれない樣な小供でさへ味つけが出來て至極重寶なものです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小供の氣質

成蹊學院主事　小瀬松三郎

私共が教育學や心理學を學びました當時、人の氣質は、

一、多血質。　二、膽汁質。　三、神經質。

四、粘液質。

と分つべきであると教へられて居たので、小供を教へる樣になりし當初に於ては、多くの小供を分類して、此の四の型へ入れようと苦心したものであつた。けれどもナカ〳〵嵌らない。

それで色々苦心の末、左の如くにして小供の性質、氣質を調べることに致しました。

第一ケ條　强弱

コヽで强弱と云ふのは、先生の言に對して、感應の强い小供と、弱い小供とあり、それを云ふのである例へば遠足に小供をつれ出して、汽車にのらんとする前に、「皆さん途中で小便がしたくなつては困りますから、汽車の來る前に、して置きなさい」と云ふと、感應の强い小供は直ぐ便所へ行き、甚しいのになると、十五分間ばかり汽車を待つ間に、三度も便所へ行くのがある。それとは反對に弱いのになると、汽車にのつて仕舞つてから「先生便所へ」と云ひ出したりするのである。而して此の中間のものゝあるのは勿論である。

此の感應の强い小供がよいか、弱い小供が惡いかと云ふに、必らずしもソウは云へないのである。

第二ケ條　遲速。　鋭鈍

明朝「雑巾をもつて來なさい」と云ふと、直ぐ「ハイ持て來ます」と云ふ小供と、何度も云はねば「持て來ます」と云はぬ小供とあり。之れも一概に速いからよい、遲いから惡いとは云へぬ。ハイと云ふのは速い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、すぐ忘れて仕舞ふのがあり、返事は遅いが、一度ハイと云へば、モウ忘れないのがあるから。

第三ケ條　輕　重

輕い小供と、重い小供とあり。輕い方は、氣輕であり、快活であるのはよいが、輕卒になり浮調子になる恐れがある。重い方は、重々しいのはよいが、鈍重となる恐れがある。

第四ケ條　陰　陽

陰氣な小供と、陽氣な小供とあり、陽氣なのはよいが、過ぎると上調子になつて仕舞ふ、陰氣も靜かな點はよいが、過ぎると病的になる。

第五ケ條　精　疎

精密な頭の小供と、疎大な頭の小供とあり。精疎ともに一利あり、一害あり。

第六ケ條　濃　淡

人情の濃かなのと、淡泊なのとあり、例へば夏期休暇中、先生へ手紙を出すのに、細々と色々なことを書く小供と、「先生僕は丈夫ですよ」と丈け書いて投函するとがある。情緒の細かなのはよいが、ソコに危險もあり、無頓着なのは情けない様だが、存外又よい所もある。

第七ケ條　冷　熱

冷やかな小供と、熱情的の小供とがある。冷も過ぎねばよろしく、熱も過ぎれば悪し。

第八ケ條　廣　狹

胸の廣い、どんなことがあつても怒らぬ小供と胸の狹い、直ぐ腹を立てる小供とがある。

第九ケ條　深　淺

注意深い小供と、注意の淺い小供とがある。

第十ケ條　滿足、不平

何んにでも滿足して、あゝうれしいなと云ふ小供と、何事にも不平を云ふ小供とがある。不平を云ふ小供も、全く捨てたものではない甘く行けば深刻な人間になるかも知れない。

第十一ケ條　悲觀、樂觀

苦勞性の小供と、心配しない性質の子供とがある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第十二ケ條　多辯と無口

多辯でも快活なのはよいが、輕卒と思はるゝ程になつては、よろしからず。無口でも重々しいのはよいが、陰氣と結び付くと面白くない。

以上の如きケ條に當て嵌めて、小供の氣質を考へ、其の上で、これはコウ云ふ點を注意して、コウ導かねばならぬものと知ることが出來ようかと存じます。何れも今少しく調べました上で、次の機會に於て、コウ云ふ氣質の小供は、コウ敎へ導くべきであると云ふことを、お話致しましよう。

自己敎育の必要

文學博士　吉田熊次

ルソーのエミールに小さい時に、小供に惡い癖をつけ、惡くしてから敎育しようとする、それで敎育の效果が上らぬのであると云つてあるが、少なくとも此の見地には半面の眞理がある。

我國へも、此の見方は古くから紹介されたもので、明治十七年に中村正直先生が發表した文の中に「人の一生は幼兒の敎育にあるを論ず」と云ふのがある。

併し今日の進歩せる所の心理學の敎ゆる所によれば、敎育の成功、不成功は幼時より、敎育を始むると否とよりは、寧ろより多く敎育の時期の終りの如何にあるらしいのである。

即ち略ば一人前になるまで敎育を續くることが敎育成功の上に何によりも大切なのである。

滿十二歲にして終る今日の義務敎育が、どうして國民としての義務敎育を完ふすることが出來ようか。と云つて國民全體を、成年に達するまで學校で敎育

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

することは容易でないから、各人自己教育の志を起し、社會の先覺者は此等自己教育者に便宜を與ふる目的を以て社會教育の發達を計らねばならぬ。
自己教育とは、新聞、雜誌を讀むなり、書物を讀むなり、講演を聞くなりして、段々に知見を開き行くを云ふのである。
社會教育とは、有志の力にて、講演會の開催圖書館の普及等を計ることを云ふのである。
一般國民が社會教育を利用して、自己教育を努める樣でなくば、其の國は發達しない。

心理解剖療法問答（下の三）

西川光二郎

◇夢の役目は何にか
潜伏せる思想が、夜間擡頭して來て、睡眠を妨げざらしむる爲めに、睡眠者を覺醒せしめぬ程度に於て、开を擡頭せしむるのが、夢の役目である。彼の睡眠を妨げる夢の如きは惡夢と稱すべきであつて、普通の夢とは區別せなければならない。

◇惡夢とは何ぞや
無理に壓迫されて居る或種の希望が、夜間睡眠中に猛烈に擡頭するより起るものである。

◇心理解剖に於ける夢の位地は
夢の中に、其人のホントの望む所が現はされて居るのであるから、夢の解剖は、心理解剖上大切な地位を占めてると云へる。

◇夢は夢みる人も知らざる封じられたる材料で組立てられてるのであるか
ソウです、されば夢の解剖が濟むまでは、夢みてる人も、自分の見た夢の意味を知り得ないのである。

◇夢の解剖が、病氣治療の上に、どう役に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

立つか

夢の解剖によつて、抑壓されたる希望の何れにあるかゞ分ると、神經病治療の上に大變に好き結果を齎らすものである。

◇夢を見ない人の無意識界を知るには、どうすればよいか

夢を見ない人は、極めて稀れであるが、若しありとすれば、其人の無意識界に入つて行く人には症候ある動作に注意することから、手がかりを得るの外はないのである。

◇代表的の夢とは何ぞや

だれが見るにしても、父とか、母とかゞ死んだ夢の如きは、同じ意味を現はしてるのであるから、斯かるを代表的の夢と云ふのである。

◇容易く解剖の出來る夢ありや

代表的な夢の如きは、極めて容易に解剖することが出來る。併し復雜なのになると、ソウは行かない。

◇どういふ夢でも解剖が出來るか

否、十分な解剖の到底出來ないのがある。心理解剖療法を或患者に試みる場合、大抵其人の夢の解剖は、手をつけし當初は困難であるが、進行するに從ひ容易になつて來る。之れは患者の反抗心が始めにありては強いからである。

◇夢の解剖は自分で出來るか

代表的の夢とか、至極簡單な夢ならば、自分で解剖することが出來る。併し複雜なのになるとソウは行かない。

◇夢の解剖は、普通健康體の人にも役に立つか

其人の抑壓されてる希望や、心中の爭闘を知る上に役に立つ。

◇神經衰弱と遺傳との關係如何

それはない。神經衰弱は、其人の心中の爭闘から起るものである。遺傳でなく、傳染でもない。

◇神經の病氣は、突然起つた或種の出來事から原因するものなりや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

非常な心配事が起つたにしても、それはたゞ近因となる丈けで、永い間抑壓されてる觀念の爲に災なくば、神經の病氣を超すものではない。

非實在的感情はどうして起るのか

自己の周圍の一切を非實在的のものと見る感情の人あり、コウ云ふ感情はどうして起るのであるか。之れは周圍のもの凡てを實在と見ると其の苦痛に堪へられざる場合に起る感情であつて、斯かる感情をもつてる人は、既に神經病の一種に罹つて居るのである。それは多くの場合、心理解剖療法で治療することが出來る。

過勞は神經病の原因となるか

かねて神經病の起る原因ありて、其は準備されて居るにあらざれば、過勞したからとて神經病を生ずるものではない。過勞はたゞ心身の抵抗力を減退せしめて、神經病の出現に機會を與へる丈けである。

ヒステリーとは何ぞや

不愉快な思想や經驗を變裝せしめようとする努力、其の際に起る心中の爭鬪が即ちヒステリーなのである。種々な病的恐怖心の結合から起るヒステリーもある。神經質な小供は之れに罹り易い。

心理解剖學では、之を何んと見るか

叱るのは、肉體的の原因よりは、心理上の原因から起るのがある。即ち何か言はうとする際、抑壓されてる觀念が出ようとしはせぬかと心配する、そこで語呂が亂れて叱るのである。されば叱りは心理解剖療法で治療することが出來るのである。

何事かゞ氣になつて仕方ないとか疑ふまいと思ふても疑はれて仕方のないのも、神經病の一種なりや

無論、一種である。しかも抑壓されてる觀念の仕業であつて、心理解剖療法で治療することが出來る。

盜心狂は、心理解剖學ではどう説明するか

强迫觀念にからるゝ神經病の一種と見る。

心理解剖の倫理的價値は？

吾々は絶へず、道德上の法則に從はんが爲めに、吾々

のホントの感情や希望を抑壓して居る。其の抑壓されてる感情や希望は、如何に抑壓されても消へて仕舞ふものではない。そこで時々は出ようとする。それに滿足を與ふる爲めの出口か、夢及び神經病的の症候である。心理解剖學は、人の潛在意識にまで入つて行て、抑壓されてる感情や希望を解放し、开をホントに行爲の力たらしむべく利用せんとするものである。

　心理解剖の敎育上の價値は？

小供の時から心理解剖學の方針に從つて敎育すれば、將來神經病の原因となるべき凡てを避けしむることが出來る。小供の時から、嘘を云つたり、盜みをしたりする習慣がつくと、それが將來神經病の原因になる小供の頭に、罪とか、恥辱とか、恐怖とかの感じを印象せしめぬ樣、注意せねばならない。

　心理解剖學の將來如何。

心理解剖學は段々進歩するに相違なく、これが應用の仕方も段々進歩するに相違ないから將來は神經の病氣を豫防することが完備するに至るであらう。(完)

洋畫の見方

石井柏亭

吾々は平常よく洋畫の見方に就て質問を受け、又洋畫に就ての苦情も聞く、それで今夕は、苦情に對する申開き旁々、洋畫の見方に就て少しくお話致さうと存じます。先づ

　第一　洋畫はキタナイとの苦情

ソウ云ふ苦情を云ふ方に「キタナイとはどう云ふことです」と、コチラより伺ふと、表面が平でなく、不揃に盛り上つて居る、繪具の塊りが附着して居ると云ふ。併し平でないものはキタナイとは云へぬ、例へば茶人の好む燒きものゝ如き、隨分凹凸がある。之れは問題にならないと思ふ。

たゞ盛上つてるものゝ中にも、吾々から見てキタナイ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のと、キレイナのとあり、盛り上り方によつて其の區別が生ずるのである。上手な人のやつたのは、如何に凸凹があつても、吾々にキタナイと云ふ感じを與へない。

第二　色が滿遍なく塗れてないと云ふ苦情

併しそれでよい畫もあるのである。そう云ふ條件丈けでは、美醜の區別は出來ない。それは素人方の淺く見て居らるゝ結果であらう

第三　どうも洋畫は傍へよつて見るとキタナイ遠く離れて見るとよい

と云ふ人があるが、吾々は傍へよつて見て頂きたいのです。洋畫と雖も、日本畫の樣に筆くせも見て頂かねばならぬのです、畫の對角線の三

倍位の隔りから見るのが普通でしよう。そうすれば筆くせも見へる。

第四　自然を如實に寫すのが洋畫の眞の目的かなんぞの樣に考へてる人

が今尙ほ少なくない。それで洋畫を見て、之れは眞にせまつてるとか、てぬとか云つて評するのであらう。勿論、西洋に於て自然を如實に寫すことを目的とした時代もあつたが、近頃は西洋に於てもそれはツマラヌことだと云ひ出して來て居る。それは勿論、一は東洋畫の影響も受けてゞありましよう。ですから此の頃の西洋畫には眞に迫ることを、わざ〳〵無視した樣な畫も出て來て居る。今までキタナイとされて居た色ばかり使つたり、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

わざ〳〵角ばらせた畫なども出て來て居る。立體派などになると、女をかく場合、乳をかいて、其の傍へお尻をかいたのなぞがある。印象主義の極端なのになると、禿頭の輝つてる所丈けかいたり、女の片目丈けかいたのなぞがある。コウ云ふ極端なものになると、一時の病的思想であるかも知れないが、併しソー云ふ病的思想にもとるべき所がある。

●第五 日本の洋畫は規摸が小で面白い思想がないとの非難

他の用で洋行し、一寸西洋の畫を見て來た人の中に、風景をかくにしても、詩的なような自然を寫さずして、田舍家の打毀れたのを寫す、つまらぬことをして居るではないか。西洋へ云つて見ると……と云ふ人が、よく〳〵あるがコウ云ふ非難は吾々には少しもコタヘぬ。

ベルサユー宮殿の戰爭畫なぞに驚いて歸つた人が大抵斯く云ふのである。彼等は西洋の昔の畫と今の吾〳〵の洋畫とを比較し、西洋人の今の畫と、吾々の洋畫とを比較しないから、コンナ非難が出るのである。

歴史上の事柄を示すとか、宗教の爲めになる畫をかくとかは、西洋でも今日はかけなくなつて居る。日本でも。佛敎の信仰の生きてる時代にあつては佛畫ありしが、今はかけない、今は佛像をかくよりは、田舍家でもかく方が眞面目なのである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ソウ云ふ意味で、大規模なものが出來ないのである。畫に文學的思想だの、哲學的の思想だのを求むるのは無理である。畫は無思想でもツマラヌとは云へぬ、色、線、形、此の三つのもの〻配合の如何で、畫のよしあしは定まるのである。

素人の方でも、之れはよいなあと思ふ時、實は色、形、線の組立てに動かされて居るのであるが、それに氣付かぬのである。藝術の爲めの藝術、繪畫の爲めの繪畫それは畫の中心思想であらねばならぬ。

英國のホヰスラは「畫に題名あるのは惡い、つけるにしても、どこそこの風景なぞと云はずに青と金とでもしたらよからう」と云ふことを主張し、此の事で隨分世間と爭ひました。ホヰスラの說は惡いことでないと思ふ。

第六　日本の洋畫の發達、はかばかしくないと云ふ非難

之れは無理である、入つて來てから日の尙ほ淺い上に、美術敎育も發達して居なければ、博物館なぞも完備して居ないことであるから、ソウ發達しようがないではないか。

同じ人の書いたのでも、西洋に居た時に書いたもの〻方が、歸つてから書いたものよりよい。

コウ云ふ差の生ずるのは、よい美術を見る便宜がコチラにはないからである。

第七　洋畫と日本畫とは、何時までも並行して行くものと思へる人

が少なくないが、私はソウ云ふ風にならぬと思ふ。現に今度の帝展にしましても、日本畫の中に洋畫に近いものが甚だ多い。畫の書き方ばかりでなく、洋畫と同じ寸法の紙や布に書いたものも可なりにある。

洋畫の方にも日本的なのが著しく多くなつて居る、例へば不折の「天の岩戸開きの如き、西洋繪具で書いた日本畫に過ぎない。片多氏の霹靂の如きも、若し屛風へ書けば日本畫へ入れてよきものである。

此の接近、此の混雜は、これから益々甚しくなり行くのみでありましよう。(動物愛護會における講演、記者筆記)

雜記帳

幸登子

○

それは昨年の秋の夕の事でした。

私達は近所に住んで居る友人を訪れたかへりに、裏通りの細道を歩いて參りました。まだほの明るい道ばたの草と云う草は露の重みにうなだれて居ります。ふと其の中に私はただ一本の紫蘇を見つけました。雑草の中につれもなく育つて少さく淋しくいぢけて居りました。私はそれをひつこ抜いて持ち歸り、井戸端に植へて置きましたが、いつの間にか枯れてしまつて別に氣にも止めませんでした。

今年の春井戸端に見なれない草が澤山芽を出しましたので、何になるのかしらんとそのまゝにして生長を見て居りました。それは次第に紫蘇の形態を備へて參りました。昨年のいじけた紫蘇が枯れ際に子孫を殘して自れの責務を果して置いたものと見えます。若い紫蘇はづんづん大きくなつて、八百屋にあるのよりもづつと立ばなものになりました。その見事な葉の大部分は今梅漬の中に赤く染つて居ります。

私はあのいぢけた紫蘇について色々の事を考へさせられました。

○

何時の事でしたか。下谷二長町に用事があつて參りました。其の時私の前を一人の廢兵がつかれきつた、足をひきづりひきづり路の南側の家をのぞき見ながら歩いて居りました。年は四十五六にもなりませうか。背のすらりとしたどことなく軍人らしい威嚴の殘つて居る人でした。私はいろいろな事を考へながら廢兵の後を同じ方角にあゆんで參りましたが、其の中廢兵が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ひよつとお芋屋の前に立止りました。其處にはおいしそうな燒立てのお芋や三錢五錢十錢と立て札をした南京豆がづらりと並べてありました。廢兵はポケットに手を入れ中をさぐりながら思案して居る樣子でしたがやがて思ひ切たように銅貨をつかみ出して三錢の豆を買ひました、そをして豆の皮をむきむき小供の樣に食べて居るのです。

あわれ此の廢兵。かつては彈丸の下をくぐり矢の中を馳せ、祖國のために身命を堵した勇士でありました。其れが片輪に生き殘つたばつかりに。此の樣なあさましい生活をしなければならないことは何と云う酬いられた名譽でせう。私の眼はいつのまにか曇つて人も家もはつきり見えなくなりました。

○

西巣鴨の公設市場は私家から十八丁程離れて居ります。初めの中は大變廉い樣でしたが此頃では通常のお店とあまり違いません。此間もお砂糖を買つて歸り掛け途中のお店であたつて見ましたら、市場の方が一錢高う御座いましだ。お米も一斗五錢の配達料をとられますので大した得もいかぬ樣です。外のお店が競爭の心から廉くしたのなら結構ですが、市場の人達が人の信用に馴れて高く賣りつけるのならば隨分横着なやり方だと思います。遠い路を歩いて高い物を買うより、近くて廉い品を求めた方が賢こそうですから、もう公設市場の恩惠は蒙らぬ事に極めました。世の中には人が好さそうで案外惡人だつたり、見かけはこはそうでのくせ親切な人も有るのですから、別に不思議はないようなものの、公設と云ふ名に對しても、大勢の人を相手にする處から云つても、もう少し當事者に良心が有つてほしいと思ひます。

銀座一丁目
電話京橋八一五、八一六、長三一七四
振替口座東京三八〇〇〇
株式會社帝國貯蓄銀行
支店
飯倉三丁目　牛込神樂坂　南品川一丁目
赤坂表町　淺草花川戸　横濱戸部町
四谷大通り　神田須田町　大阪九條通
本郷一丁目　兩國元柳町

桃世とお人形（一）

東大寺太代

暑中休暇も三日ばかりで盡きやうといふ八月末の午過であつた、桃世はこの小さい家の東の縁へ出て頻りに表の方を氣にするやうであつた、が突如、

『母樣、家でも虫干をなさらなくて？』

母は針の手を止めて一寸桃世を見たが、再び俯向いて仕立物へ眼を落した。

『母樣、お向ふでは今日も干して被入してよだけど、男兒ばかしだから見映えが爲ないのね、……あたし達のものも干しちやあどう！よつちやんの薄紫の被布だの洋服だのね、……あたし蟲干し大好き！』

桃世は彈んだ心持ちで母の前へ座つたが。母親は冷談にせつせと頼まれ物の脊筋を扱いてゐた。然し桃世は倘少し狎々しく、些と甘へた風をも加へて、一分間ばかり黙つてゐたが、ふと以前よりも熱心に、性急に、

『え母樣！あたしでよろしければ出して干してよ』と覗き込む。

と今度は母が慌てゝ、而もそれとは反對な重々しい口調で、それを遮つた。

『いけませんわ桃世さん、この暑いに……只さへ狹つくるしいんだからが母は邪慳らしい自分の言葉を省みた。此場合何か適當な、桃世に感情を害しないよい辭はないものかと案じるやうに眼を瞬つた。

『あなた方が學校へ入したらばね、其お留守に母さんが熱う〱干しときますわ』

桃世の母は爾う云つて、傍の手拭で顏中を拭いた。なほ襟頸にも汗がべと〱してゐた。母は酷く氣が急く如く、桃世をも見ないで、茶の絹糸を針の孔へ通してゐた。彼女は此時頻りに自分自身を鞭つてゐるかの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やうに見えた。それでゐて顔には氣抜けのやうな異な―半無意識といつたやうな―微笑がさ迷ふのであつた。何にしても子供中で一等好きな桃世にすら傍に居られるのが窮屈のやうな迷惑のやうなのは確的であつた。

「だつてあたし……。あの紐解に着たのはほうら」と母の瞳を執へて、

「伊勢丹で拵へたかの着物ね、あれが大好きなんですもの、えゝ見るだけですわ、そうなの母様」

「……」

母が返辭して呉れぬので桃世は詰らなさそうに其動く細い指先を見詰めてゐた。以前の家は間數も多く疊數に爲たら、此家の六七倍はあつた、添加に前栽は三百餘坪あつたし、他に中庭だのそれから畑も邸の周圍にあつたので、長い休暇にも飽きるやうな事は無かつた。

「あれは尋常三年の頃だつたかしら」と桃世は考へ深さうに、何かの記憶を辿るやうに上眼を使つた。其頃は決して學校が嫌だとか何とかいふ理由があるではなくて、たゞ暑いから、病氣になつてはといふ母の氣遣ひから、九月になつても一二週日は缺席してゐたが一昨年、あの洪水の年からは家が暑苦しいのと、萬事が豊富でないのとで、變化に乏しいお休みにはもう〳〵愛想が盡き果てた……早く學校が始まればいゝ、と思ひつゞけてゐた。……

「桃ちやん、それよか貴娘のお人形の物は什うなの、干さなくちや黴が生えやしませんか。

「爾うね母さま、と桃世は急に勢づいた」

「干しませうか、よくつて?」

「いゝですとも、あんな可愛いゝ着物、邪魔所ぢやありませんわ」

「そう、ぢや……」と桃世は快活に立上つた、そして押入れから大一の柳行李を引摺り出して來た。

「持つて上げませうか」「いゝの、蓋をとつていくから、それにおべゞだけなんですもの輕いわ」

そうは言つてるが十三の桃世には餘程重さうであつ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。赤い顔をして二間ばかりやつと抱へて來た時、拭込んだ緣へどゝんと投げ出した。が懐しさうに其中の紅地メリンスの小さい振袖をさゝげて、「こら母様」といつた。母もつとめて愛想よく頷いてやつた。書生の持つ大きな行李には小さい様々の着物や羽織などが半分以上ぎつしり詰つてゐた。それだのにそれらの着物を着る唯一の人形は極めて粗末なばかりか、頭髪が拗り取られ、鼻先が嚙りへらされてゐた。

「おゝおゝ、クリスマスまでお待ちなさい」と母は醜い人形を示す桃世の心持を可傷しく見やつた。

「吃度ね母様、そしてよつちやんにもよ」

「えゝえゝ、本統に貴孃方にはお氣の毒でしたわね、十二個も一時にいけなくしちやつたんだからねえ……」と母親も感慨深さうな眸をした。

「いゝわ母様濟んぢやつたんですもの、……ですが母さま、まさかあんな海嘯が來たら什うでせう、今年あたり、來ないでせうか」

母にも桃世の言つたやうな想念が、あれ以來雨が降り續いたり、南西風が吹きつけたりする毎に胸に徂徠した。一度殘忍な目にあつた弱い人間は、もう〳〵其座災禍には一生出會ふ事のないやうに〳〵と祈念するのではあるが、異しな事にはそうした祈願と同時に、一度見た怪物……眞に怪物のやうな災厄だ、も一度……それはも一度切り……に會つてみたい、自分自身をそういふ目に會はして見たい……といふ、全く奇怪な、實に不思議な期待を有つといふ事は、ありうべからぬ事ではない。……些とばかりの雨にもポットポット悲哀な音を聽かす此家の屋根！其穴の開いた貧やしみだらけの天井板を振り仰ぐ時には、氣分によるでもあらうが、いつそ洪水でも海嘯でも來て、疊も建具も潰つちまへつ」とも思ふ……。それは眞箇に淺墓な卑劣な憫然な想念だと、彼女自身人知れず面を火照すほどではあるが、それにも係らず尙屢く海嘯などが來て慾つ張りな人間の家が押流され引摺まわされるやうな事があるかのやう、ひそかに抱懐のも隱し切れぬ事實である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それは今から丸二年前の九月三十日の夜半の事である、其三四日は降つたり曇つたりして、此地方の惡い道路はぐしや〳〵でならねば泥々であつた。でも其夜は有繋仲秋といふだけに依然雨空ではあつたけれども、靜かな明るい風のない宵であつた。桃世らは低い緣側近くで、一等が山から捕つて來た轡虫や地虫の鳴く音を訊き乍ら栗や枝豆を食べてゐた。

「もうお寢みなさいよ」這麽晩には……と母はふと念つた。

「早くお寢なさいな皆樣」と母が重ねて言ふので桃世も弟妹らと蚊帳へ入つた。

「お寢みなさい、母ちやんお寢み、母樣お寢みなさい、母樣はお寢にならなくて？」と最後に桃世が言つた。

「えぢき寢ますよ、これを明日返却さなくちやならないんでね……。皆さん默祈をしてお寢なさいよ」

母は栗の皮だの笊や小刀だのを片付けて、三分芯を引よせ、(電燈が點火なかつた）借物のジヤンクリストフを展げた。

「神樣神樣、僕の傍に被入して下さい」

其時四歲であつた眞吉が頓狂な挨拶をしたのをお了ひに蚊帳の中は鎭りした。次の瞬間にはもう穩やかな寢息が母の胸を撫でるやうに洩れ訊かれた。桃世の母は一心に譯書を見入つてゐたが、何かは知らず運命の不測といふやうな事を考へ出してゐた、彼女は書物から目を離して不安に堪へぬ心持を、小さい灯火へよせようとしてゐた。其時十二時が鳴つた。めき〳〵、パツタパツタと北と東の千斷れきれないでゐる障子紙が蒼蠅く鳴り出した。風は漸次激しくなつて、東向きの唐紙などは支へ物があつても危なかしかつた。それで彼女は其時机代りに用つてゐた大きな食卓や張物板をも其邊へ立てかけた。が然し小屋のやうな小さな家全體の震振はどうにも爲やうがなかつた。事によると熟睡つてゐるこの幼兒達と一緒に海の方へか、或は丘陵の方へかこの儘もつていかれるのではなからうかとさへ念ふのであつた。バラバラバラツと前分の打豆よりも大粒な、強い力で打つける雨の音が、眞上だか東だ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

か瞭然判らなかつた程俄然襲つて來たのと次には礫をこぼすやうなどしや降りが其低い亜鉛屋根の下へ響いて來た。實に怖ろしい風力だと思惟つた。借家建の天井を透して、子供らの寢てゐる夜具の上などへ雨雫が落ちて來た。……

「酷い雨ね母様」と蚊帳を出て來た桃世が悄然机の横へ立つた。

「何時だらう、」

「一時半よ」とこれも先刻から目を醒してゐたものか、桃世の弟妹がひそ〳〵問答してゐたが、もう凝つとしてはゐられないといふ風に、ごそ〳〵蚊帳を匍ひ出して來た。

「おや眠れないの」と母は幼い兒に調戯かけたが、どの兒も眞面目な顔付で「母様のやうな大人の氣分にはなり切れませんわと言はんばかりに口を緘んでゐる。心細い沈默が一座を威壓してゐた。……桃世らはまたこの母の押隱してゐる何物かを決して見遁すまいと見張りする。親子の心をさし貫いてゐるさうした恐怖心を互に隱しあふてゐることが一層の寂しさであつた。桃世は何もかも判つてゐるといふ風に、沈んだ、子供には寧ろ落付すぎた表情をしてみせる小さい彼女は事によるとその豪雨の中から何かの悲慘事が生れ出るといふ豫覺を抱いて、この親しい人々を見守つた。

すべてこれらの光景を、小さい石油壺の笠もない洋燈が黄色く、そしてぼんやり照し出すのであつた。

（八年十一月二日朝未完）

女が生活するには

中村孤月氏著

著者の序文の一節に「此書は、直接に仕事を撰選するにも、また現代の婦人は如何なる自覺を持たなくてはならぬかと考へる上にも、必らず讀まれなくてはならないものであつて、如何なる女の人々であつても、書物を讀む人々があれば、讀まれなくてはならないことを信じます。此の書物には、自分の見た考へのみでなく、女の人自らが女として考へられたことを十分に多く取り込んであります」とある通り、仕事を選擇する上には、現代の婦人は如何なる自覺を持たなくてはならぬかを考へる上にも参考になる、よき書物であります。（定價一圓、東京市本郷區駒込坂下町　大日本雄辯會）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

木綿デー

西川文子

「そらあそこです、屋根に赤い旗の澤山ある」
車掌は指した。
「そこ、ぢやあこの次で下りればいゝんですね」
「下りましやう」
下町ではあるが、自分で店番をしなければならぬほど、多忙なこま〴〵しい店ではなささうな、體と頭に暇のある、其の上懷中も裕りあるらしい、お召と大縞の二人づれは永樂町で下りやうとした。
「今頃とてもあなた方は入れますものか、昨日あの雨の中でさへ割引で出かけても午前中は容易ぢやなかつたと云ひます。このお天氣では。然かも今頃ぢや」
入口に腰かけてた老人が云つた。
入場切れない群集は二三丁も離れた、その電車道迄溢れてゐる。
この邊に所用あつて來た國代も二人の後につゞいて下りた。
「滿員、午前中入場お斷り」の大文字のビラが一目に見えた。大縞は云つた。
「まあつまらんわね、晝まで日比谷へでも行つて來やうか」
「さうね、ぼかんと待つてるわけにも行かないわね」
お召の羽織もそれに相槌を打つて、三越の別館とは反對の東京驛の方へと足を向けた。
日比谷に開催中の菊花園でも見やうと云ふのだらう。
國代は二三軒立寄つてから又三越の光景が見さにぶら〴〵歩いて來た。そこには東京驛の改札口より、五六倍もの大勢が三四列にうねりくねり迂回して、數名

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の騎馬巡査がそこゝで指圖したり、制御したりしてゐた。容易くは入れさうなら參考に見てもいゝと思つた國代は入場るのは斷念した。

とても忙しい今日の日を國代はこゝへ入つてはゐられない體だつた。

見ないでも國代には場内の光景は察しられるのだつた。三越の本館始じめ他の大呉服店でする春秋二季の大賣出しで分つてゐる。鵜の目鷹の目あれかこれかと撰り盤したのを一抱へも二抱も持ち込んでは、其の中から又取捨しやうとする。さながら分取でもするやうに。我一にと柄のいゝ格好なものをと、必死になつて漁つてゐる狀態はあまり見つともいゝものではないと思ふのだつた。

今日は木綿デーと云ふ丈けに本館に見る樣な目に立つ婦人もちらちら見えないではないが、染がすりや木綿縞に身を包んで一抱づゝの風呂敷包をかゝへて出て來る樣なのが多い。せはし相な小きざみで話しながら呉服橋の方へ急ぐのは向ふ河岸の小店の主婦らしい。

平常無口の國代も今日は記者根生を發揮して訊ねた。

「どんなものがありますか」

「木綿が主ですね」

「お安いですか」

「えゝ一圓はお安いですね、市價より三割五分はね」

「さう」と二人は顏見合せて答へた。

「大變な人でなか／＼買はれますまい」

「そんなでもありません。今からは樂になりましやよう」

二人は呉服橋を向へ渡つて行つた。

取殘された國代は恍惚として、雨上りの美くしい瑠璃色の空を見上げた。それは塵埃と煤煙の多い東京にはめつたに見られない田舍の秋を思ひ出す樣なものであつた。やゝ暫らくしてから、國代は右往左往懸命に押合つてゐるらしい人垣を見るべく、目を地に落した。柵外の横合から闖入しやうとして、騎馬巡査に制せられすご／＼と遥におくれた列後に廻る一團の人もあつ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。
「いくら買つたつて品物はなくならないが何にしろ狹いからね」
マントを着た商人風の二人の男が話して來た。男も交じつてはゐるが、何と云つても七八分は女客である。
「三越では第一日目の人出に驚いて、店員を倍加して用意したもの丶まさか雨の二日目にはさうはあるまいと思つてゐると、意外にも前日にもました大入で目を廻すほど忙しかつた。これと云ふのも世間の景氣がい丶ので安いものなら買つておいても損はなからうと云ふので、斯くは素晴らしい人出を見たのではなからうか」
と云ふ昨日の夕刊記事も一層の人出を促したのだらう。其の他にも
「木綿デーと云ふ品目が品目丈けに、ネンネコに赤ん坊を負ぶつた神さんや、垢染みた風彩の人も見受けられる」
と云ふのにも唆られてであらう。
それにしても他の日用品廉賣所に見るのとは客種も異がつてゐる。目的も強がち實用向とばかりは云はれまい。
國代は一般婦人の趣味理想を今更のやうに驚いた。一見した處可成事足りてるらしく見られる婦人達である。餘分に買ふのに厘毛の低廉を競ふ必要もあるまい、實用にしても、一定の職業や、忙しい業務ある婦人には到底不可能な事である。閑暇はある着物は欲しいと云ふ婦人もなか／＼に多くあるものだ。
この活動のはげしい都會にも。さもしい樣な、あちきない樣な一種名狀し難い感が國代の胸をついた。
多數婦人の心がかくも小さく△△△△△動いてゐる中は……。
國代はふと幼い時の事を思ひ出した。
東京では暮の歲暮賣出しが盛つて、どの店もどの店も「歲暮大賣出し景品進呈」の赤い白い旗や幟が立て並べられ樂隊や蓄音機で囃し立てるので、年の暮れに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

市中をぶら〳〵すると入らないものまでも買ひたくなる買心をあほらるゝのだが、新年には掌を返した樣に靜まり返つて了ふのに。

國代の田舍では正月の二日三日四日の賣出が大變な騷ぎだつた。近郷の村々からは夜中から出懸けていつて、殆んど一年中の必要品を買求めるのが慣例であつた。味噌、醬油、日用品も買ふには買ふが、中でも呉服類がやはり主たる品目で、一番張りをして物差、鋏を取つたものには呉服一反、酒屋では升を取つたものには、大鏡餅を一飾と云ふのでそれを目懸けて行く若いものもあつた。

國代の母もその買初めを一年中の樂しみの一つとしてゐた。かね〳〵胞鎹を立てゝおいては『今年は隨分費るんですよ、あれもこれもと冬の中からポツ〳〵父に警告を與へるのだつた』。其麼事には極端に無頓着な父は『よし〳〵要るものはいくらなと買へ千兩箱を預けるから』と云つてゐた。いよ〳〵となると母の豫算を見て『何せそんなに費るこれ位でよからう』と結極五六十圓に切りつめられるのだつた。それでもその頃の五六十圓は大風呂敷二包にもあまつて、女中では持ち切れなくて、翌日下男が取りに行かなければならぬ程あつた。

日がとつぷり暮れて夜道を歸つて來る母を、十町あまりも田甫道を迎へに行つて、あらかた刈り入れられた中にポツ〳〵刈殘されたおくの淋しく殘つてゐる冬田を眺めながら寒ひ枯風に吹かれて歸つたのも國代の樂しい思出の一つである。

『何時まで買物をしとる、よい加減にしてくればえいのに』と父は晩のお勤めをすまして待つてゐた。そのまゝ佛前で『さくら會』『博覧會の事』をしやうと、買物のいろ〳〵や景品を見せて貰ふのは奈那にうれしかつたか。

國代は春秋二季のかうした賣出しの光景を見る毎にさうした母の面影をおもい出すのである。世は進んでも、大都會に住んでも、いつまでも昔日の母が見られる樣な氣がした。でも母がそれ程にして呉れたらばこ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そ私達も相當にしてゐられたんだ。まだメリンスを知つてるものゝない頃に。當時唐縮緬と云つてゐた。その飛模樣のもので姉と揃ひの着物と羽織をこしらへて貰つた事もあつた。

國代は幼少な頃から着物には執着がなかつた、母はあれもこれもと年老つても、身嗜みよく、幾通りもの衣ものを整理しておいて、其一つが少しでも損むとすぐ手入れしてしまつておくのだつた「年老るほど着物は餘計に入るよ、お寺詣りもしなけりやならないし、親類に行つたり、旅行をしたり、世帶盛りにはあまり出られなかつたものも暇になると出歩るけるから、每日のお寺詣りにも、まさか一つものも着られないし」さう云つて、一丁羅、二丁羅、三丁羅と揃へてゐた。その同じ一、二、三流にも幾通りあつたかしれない。母はそれ程執着だつた丈けあつて、古いものでも母の手に整へられ着こなされると見違へるほど立派に見えるのだつた。

「お前の樣に着物を粗末にするものはない」

國代は他所行から歸つてもいつまでもそのなりでゐて、いつも叱られてゐた。

母の衣服好きに反感を持つてと云ふわけでもないが國代は幼い時から、着物なんかいらない〳〵と云ひ張つてゐた。で自然母は自分のほどには國代のものはつくらなかつた。それでも國代は娘時代の名殘のものを茲四五年前までも着てゐた。今だに裏になつたりいろ〳〵役立つてゐるのを思ふと親の慈悲も忽には出來ぬと思つた。國代は自分が若し何もしないでゐるなら、今でもやはりその遺物を着てゐるだらうと思つた。七八年前から出歩く事が多くて着つぶして了つたので、必要に迫られるお蔭で茲數ケ年は一つづゝでも補充する樣なものゝ、如何に着物に無頓着な國代でも今は其の方面の智識も少しは得たつもりだし、機會も多く與へられてゐるのに、國代はいつでも「何今日に限つた事はない」さう思つては自分のものでも、小供達のものでも、押しやり〳〵して行くのである。一般婦人の樣に執着さへ強ければ隨分出來ない事はないのに。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國代の父も買物をしない人だつた、小供には學資の追加を請はるゝまゝに出し、母には「自分で買つてこい」と當然父の領分であらねばならぬ器具や家具でさへ母に金を渡して、決して自分には買はない人だつた。「お父さんは内のものには氣前よく出されるけれど、直接他人に渡すのがいやなんだらう」と國代達は云つてゐた。その父に似た國代は、母に似て買物好きの兄が三越や白木などで、珍柄を見當り次第買つて國へ送るらしい。それを逆輸入しやうとするほど自分では直接買物するのを、わけもなくためらふのである。

　國代は今は十二と九つの女の子の母親でありながら常着と、晴着と寢間着とあれば澤山過ぎると考へてる樣な母親である。謙遜な彼幼女等は感心にもそれで滿足してゐる。遠足期がくれば、長女が四ッ身になつた時こしらへた伊勢崎を讓られた次女は七八年越しのそれを喜んで來る年も〳〵繰り返し着て行く、長女のも兄の子のお讓り銘仙でこれ又何年越のものか分らない其の他は彼等よりずつと身なりの大きいJさんの愛孃達のお讓りである。次女はちびなのを幸に、長女の縮緬の產着をそのまゝ着て去年の冬もすましたが、何んぼ何でも今年のお正月はもう一ッ身でもあるまいとは干虫の時の笑話である。かうかきたてると、如何にも可笑しいが實際品物を見れば滿更捨てたものではない。それほど國代のうちでは欠乏してゐるかと云ふと、商賣上必要だとはいひながら一ヶ月に費やす本代ばかりも決してさう諶少ではないのに、全く國代の衣服に對する執着の不足から來るのだらう。

　國代にしてみると「勿體ないまだ〳〵あれで間に合ふ」と思つて買はない所も、世間の親は、簞笥にあるのはすつかり忘れて、不足を充す爲めではなく、これを愛子に着せたら、これは何子に似合ふだらうと云ふので、いゝ柄の見當り次第求めるのだらう。それが一般の母親たるものの役目だ。彼幼女等が若しも私達もお母さんの心懸け一つではさう云ふ風にして貰へない事もないと知つたら恨みはすまいか、國代はいつにな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

く彼等にすまない、氣の毒だとつく〴〵思ふといやに感傷的になつて來て涙ぐましくなつた。直ぐ後から無理に反撥する樣に、それは無用な心遣いだ衣服の多いと云ふ事は、何も幸福の象徵ではないと思つた。小女一人の衣服が幾竿の簞笥に滿されてゐるも、父母の間に葛藤の絕え間ない家庭もあらう。此の間も次女が學校から歸つて、

「何々さんが朝遲刻したから、先生がお訊ねになるとお母さんとお父さんと喧嘩してお母さんは歸つたからお祖父さんがお飯を炊いて、私が赤ん坊を見てゐたからだと云ひました。お母さん、大人でも喧嘩する事がある？」と目を見張つた時、國代は今更の樣に自己の幸福を思つたのだつた。併かしそれは國代自身の趣味で。彼女等の世界は自から又別であらねばならぬ。

其次女は母親の國代には似もつかぬおしやれで、短かいチンチクリンのチヨロ〳〵毛を、叮寧に組んでリボンをかけて、黒い顏も可笑しくない程度にする天才の持主である。

彼女の父は彼をリボ狂〳〵と呼んでゐる。あんなんだもの美くしいものを澤山つくつてやつたらさぞ喜ぶだらう。さうするのが本當の親心と云ふものかも知れない。私の樣に自分勝手な事をして、それを理想だなんて理窟づけやうとする樣な母親をもつた子等はいゝ災難かも知れない。

國代が其麽事を考へるのに時も間も要らなかつた。

衣服故には殆んど狂的にも近い多くの婦人達を見てゐると、日頃尤もらしく考へてゐる自己の持論が誤まつてゐるのか、一般が正しいのか混亂させれたからである。

眞白く新築された三越別館で、一しきり場外に吐き出されたので、入替になるのか、蟻の行列は一足づゝ歩を進めてゐた。國代が田舍ものらしく見守つてゐると、側の娘さんはそれこそ今日始めて都入りしたと云つて、

「田舍ものはこの人を見た丈けで、おつ魂消ちまひます」と云つてゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふと向ふから出て來る群集を見ると、その中に國代が日頃仕立ものを頼んでゐる平野の浪さんが、一人負ぶして、一人の手を引いて來るのを發見した。

「まあ珍らしい所で、怎しました」

「はい、昨夜兄が參りまして木綿ものが大變安いから要るものがあれば買つて來るといゝと云つたものですから」

國代はかうした人（曾つて日本橋邊に來た事もない）まで來たのだから混雜するのも無理はないと思つた。

「ありましたか」

「まあ驚きましたわ、難義して、難義しても澤山買ふんなら引合ひますが、此子のもの位ぢや知れてますは」

手を引いた子供を指して目を伏せた浪さんは、自分のものだつて要るものづくめだらうに、と國代は思つた。

「でもお安いにはお安いですわ」

可愛さうに目を落してゐる浪さんの目は濕を帶びてゐる。

「罪だ、彼那にも大きな風呂敷包を抱へて來る人もあるのに、浪さんのは薄つぺらな、高が一反位の容積だそれも無理はない、つひ此間まで浪さんの夫は失業してゐて、やつと職業を見つけたものゝほんの間に合はせの宿直位ではとてもそれ丈けでは生活費丈けにも不足を告げるのだが、やつと浪さんの裁縫や留守居や小守にやとはれた代が物價騰貴に際して、少しづゝでも値上げされて來たので、そこに少しの餘裕が生れてかうした處へまで足が向けられたのであるが、さて來てみると感無量ならざるを得まいと國代は同情した。

「一ツ身と四ツ身の綿入れが要る」と云つてゐたので染飛白でも一反買つて來たものだらう、三圓八十錢のものが二圓五十錢でも謙遜な浪さんにとつて一圓三十錢の手間賃は有がた過ぎるだらう。こんなのこそ本當の實用切れだと思つた。

或婦人は衣服道樂で、ものゝ一二度も役立てるか、一度も手を通さずにでも氣に入らぬと直ぐ賣飛ばす、こんな人はホーマリストの夫人には、不經濟な奥さん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だと叱られるだらうが、暇と金のある人が忙しい人の爲めに新調して安く賣却する。それは一生に何度一年に一度も着るか着ない様なものを、簞笥に納ひ込んでおくのに比べると遙かに、慈善的社會的行爲だと云つてよいと國代はそんな事を考へてゐた。新調して直ぐ賣るのは、國代などが新刊書を讀了後直ぐ賣る場合と同じく、三越の請取の半格と定まつてゐる相である。疵や染みや、あまり着古したものはもつとすづと引けるのは云ふまでもないが。

國代は呉服橋を越えた、三好野の赤のれんをくゞつて、浪さんと小供達におしることおぞうにを御馳走して、乘替の多くない日本橋まで來て電車に乘せてやつた。

丁度その時、この邊をよく歩いてゐる狂人染みた、大きな女乞食が五月雨時の若芽か板昆布のやうにどろ〳〵になつた布のぞろ〳〵裂け破れて下つたのに昨日の雨でかびさへ浮いて側に寄つたら奈何な臭氣がするかと思はれる、衣服とは誰れの目にも見えぬ異樣なものをまとふて街道をぶら〳〵大手を振つてねり歩いてゐた。（完）（十一月六日）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御教示を…………

小野ゆき子

久しく御疎情いたしました。何か新春へかけて書かして頂きたい……確かに何か書けやうとよい心持になつて居るところへ、

「奥さん家が空いてます」と肉屋の小僧が知らせて呉れるのです。

「あらそう！什麼家なの？」

「什麼家だか札があつたから」

「然う、然うなの、どうも有り難う、ぢや直ぐいつて見ますわ」

「早くいかないと何だか借人のやうなのが眺めてゐましたつけ」

「呀つそう!!どうも有り難う今直ぐいくわ、それで小僧さん餘り大きな家ぢやなくて」

「どうだか知りません」

「ホヽヽヽ何でも往つて見ればいゝわ、有りがとうよ」

恁ういふ風にしてこの二月ばかりといふもの感興があつても何でもかでも家を飛び出す癖がついてしまつたのでございます、昨日の日曜も洗濯な爲かけたまんま、そうした調子で、夫れから夫れへ脚を向けたゞ下駄の歯を摺り減らして家へ歸つた時は最早日がとつぷり暮れてゐました。「お子様はお幾人で」

「子供は女が二人と男兒が二人、もう可なり大きくなつてをりますが……」

家主に斷られまいとする心が自づと顯れて、其麼卑しい言葉にもなるのです、がそれでも家主の神さんはまだ手の冷えるやうな時候でもないのに左の手を懐中して白足袋の先で、大の頭を抑へ乍ら

「ずゐぶん大勢樣で」と鋭く片頬を射かける……といふ鹽梅なのでございますの、

住んで見たいと念ふやうなのは歯が立たずまあこれでも我慢してと、辭まで低めて頼んでみればかうしたぐわゐに冷笑され……といふて私もそれを苦に病むやうな柔らかな心持ではありませんがれ——。然し子供があつては貸されぬといふのが普通のやうなのは腹立たしいといふよりは一寸考へさせられる事ではございますまいか。

ある一人の人が幾つもの家を持つてゐて、それを貸すの貸さぬのと、本統に考へてみれば理由のない事のやうにも念はれてをかしくもなりますのよ、然し事實は事實で、收入の不確な事子供が四人もあるといふ事は、容易く安らかな寢床が與へられぬ事になるのです。私は今それを合理とも不合理とも言ひも思ひもするのではありません。父を亡くしたり夫を歿くしたりした母子が、それは二人三人ならばなほどうにか母親の手で育てられも爲ませうが、もう母子五人となつては女一人の手ではむづかしうございませう……。

御社などではそうした方面の御研究について具體的にどういふ御方針であらせられますか。次の紙上でゝも御教示にあづかりたう存上ます

不思議によくきくしもやけの妙薬
しもやけ根切薬
◎各薬店にあります
騎馬印に御注意あれ
本舗 東京上槇町 支那安東縣 安川晃榮堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

[illegible]青葉の舍設立

趣意書

地方の御婦人中、色々の御事情から、上京して職を求めねばならぬ方で、新眞婦人社に依賴して來られる方が次第に殖えて參りました。又一方東京に於ける知合の方から「人がないか」と云つて尋ねられる事も次第に多くなつて來ました。之れまでとても出來る丈け御世話をして參りましたが僅に手紙で知れる丈けの人を御世話するのですから、心苦しい場合と御小言を頂く場合も御座いました。一方職を求めらるゝ方には何んとかして御世話してあげたいと思ひながら、便利な組織のない爲めに、ほんの暫らくの月日の事で適當の職業を見失はねばならぬ樣な事が御座います、手紙で地方に紹介してゐる中に、どうかして、寄宿舍様のものを設け地方の御婦人で上京したいと云ふ方は兎も角御引受して一先づ之に收容し、御本人を見た上でそれ〴〵適當と思ふ所へ御世話し且つ職業婦人にならうと云ふ方々に、必要な心得を御話し職業婦人の出會ふ道德上の危險も保護いたす事に致したいものと祈つてゐました。所が愈々其の時が參りました。どうしても、致したいと云ふ決心がつきましたから、皆樣に御願して其の設備をするについての資金と維持費の中に應分の御寄附をして頂きたいと存じます。

青葉の舍規約

一、職を求むる婦人、學資の足らぬ婦人、求職者共の他の相談に應じ、職業の周旋を爲すと共に、場合によりては一時本舍に收容保護するを以て目的とす。

二、本舍が御世話せし人々を會員とし、會員は其の目的を達せし後、本舍へ任意の感謝金を寄附すべき義務あるものとします。

三、本舍の經費は、會員の感謝金と、名譽贊助員の寄附金を以て支辨します。

四、本舍の報告は、凡て新眞婦人誌上で發表します。

青葉の舍贊助員芳名

新渡戸稻造氏	高島平三郎氏	與謝野晶子氏
吉岡彌生氏	戸野みちゑ氏	宮武はる氏
東大寺太代氏	小村夏子氏	中村久六氏
中島謙太郎氏	横山幸次郎氏	古谷精一氏
石川貞吉氏	高島米峰氏	伊藤きん氏
鈴木楢二氏	武居飯十郎氏	逸見斧吉氏
遠藤はつ氏	竹內茂代氏	澁澤榮一氏
中村松乃氏	小川榮一氏	森村市左衞門氏
大倉喜八郎氏	戸板せき氏	齋藤紀一氏
篠田せい氏	名生ゆき氏	長谷川屋磐氏
櫛　昌三郎氏		

新眞婦人定價表（每月一回一日發行）

一冊	（郵税共）	貳拾錢
半年分	（郵税共前金）	壹圓廿錢
一年分	（郵税共前金）	貳圓四拾錢

◉新眞婦人廣告料　特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正八年十一月廿八日印刷納本
大正八年十二月一日發行

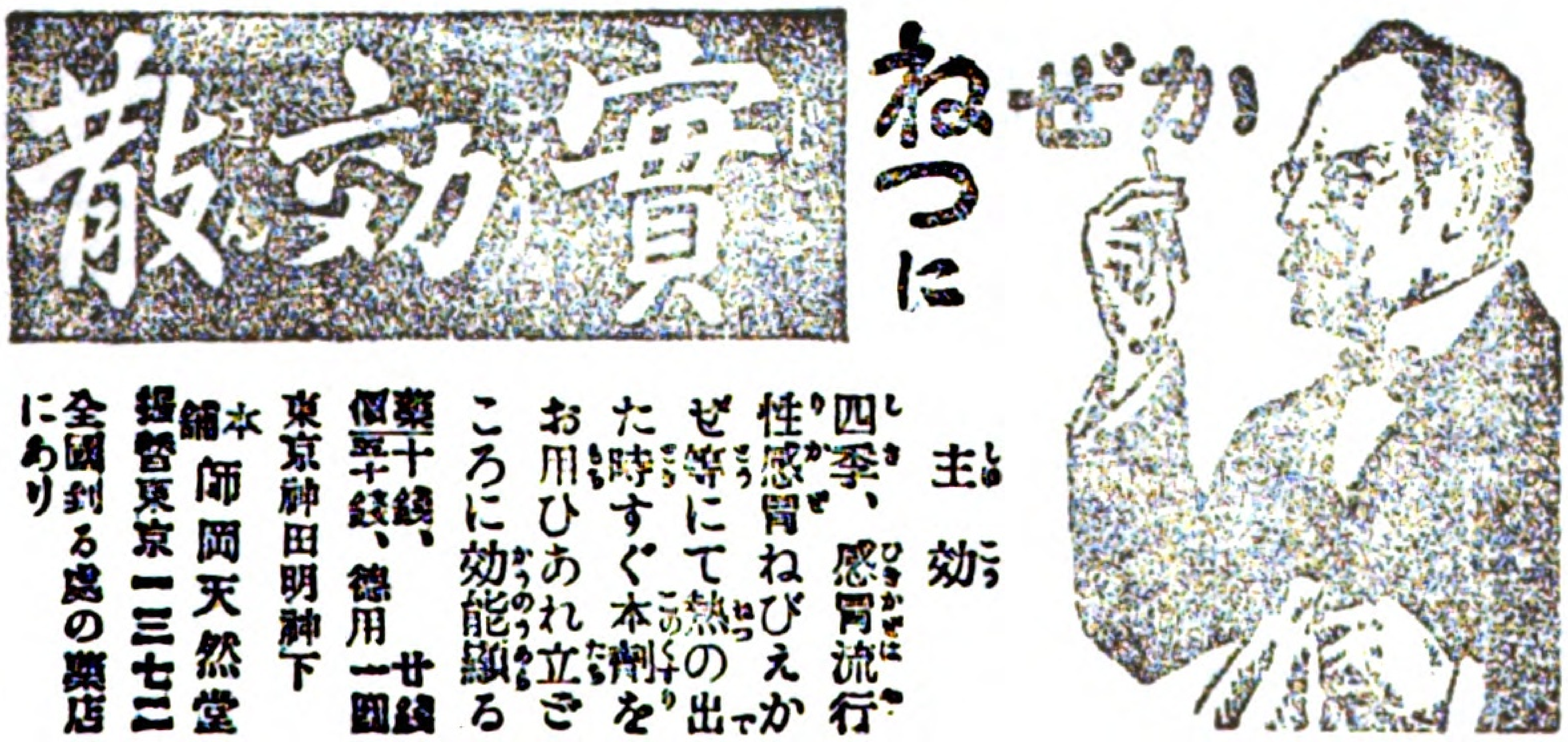
本鄉區駒込動坂町三二七番地
發行兼編輯人及印刷人　西川文子

下谷區入谷町三百九十六番地
印刷所　博眞堂

東京市本鄉區駒込動坂町三二七
新眞婦人社
郵便振替貯金口座東京二四五三六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

各女學校御用特許
(目錄送呈)


實効散
かぜ・ねつに
主効
四季、感冒流行性感冒ねびえかぜ等にて熱の出た時すぐ本劑をお用ひあれ立ごころに効能顯る
藥十錢、廿錢
價五十錢、徳用一圓
東京神田明神下
本舗 師岡天然堂
振替東京一三七二
全國到る處の藥店にあり